山深き恋の丹波

辻　憲男（文学部教授）

丹波は兵庫県の中央部、東の京都府にまたがる山国である。篠山市（ささやまし）は以前は多紀郡、丹波市（たんばし）は氷上郡といった。

これは1686年刊、井原西鶴の『好色五人女』のなかの一話。ヒロインおさんは京の暦屋の若妻で、当世一と評判の絶世の美女であった。家政ゆき届き、商売は天下の独占企業、何の不足もない幸福なお内儀と見えた。ところが運命のいたずらか、ふとした出来事から、手代の茂右衛門（もえもん）と駆け落ちするはめになった。店の大金を持ち出し、琵琶湖に身投げしたと偽装し、ひそかに丹波の山奥へ逃げた。さても「世にわりなきは情けの道」とかや、追いつめられるほどに愛の深みにはまった。しばらく天の橋立の文殊堂に潜んでいたが、美人は隠れもない、うわさが京に伝わり、とうとう追っ手に捕われた。

実際の事件は三年前。理性のほか、死を覚悟した逃避行である。おさんも、姫路のお夏も、江戸の八百屋お七も、恋ゆえに身を滅ぼした。後に近松門左衛門もこれを劇につくったが、最後は二人が高僧に救われるハッピーエンドにした。

丹波ゆかりの人物と言えば、春日局（かすがのつぼね）や俳句の田捨女（でんすてじょ）、大正昭和のモダン詩人・深尾須磨子らがいる。須磨子は、「春！　春！／馬酔木（あせみ）にさえ／かわいい鈴をおくる春！／仙人掌（さぼてん）にさえ／優しい緋房をおくる春！」と歌った。丹波路の春はそれほどに待ち遠しい。

厄神祭で知られる柏原（かいばら）の八幡神社。
丹波市は茂右衛門（茂兵衛とも）の郷里という。